

令和4年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 尾倉 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語、数学、理科)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、数学、理科)

教科に関する調査(国語、数学、理科)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

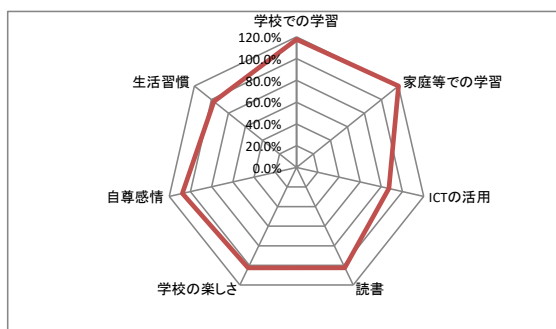
(1) 全国・本市の学力調査(国語、数学、理科)の結果

本年度の結果	国語		数学		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	6.6	47	9.8	47
全国	9.7	69	7.2	51	10.4	49

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全ての項目において、福岡県及び全国の平均点を上回る。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	「場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉える」問題の正答率が顕著に高い。	
	努力が必要な問題	1(1)の問題が全国平均と同等であった。スピーチの一部を呼びかけたり問いかけたりする表現に直す問題である。聞き手の興味・関心などを考慮して、表現を工夫する力を身に付ける必要がある。	
数学	全体的な傾向や特徴など	全体的に全国平均を上回っているが、「関数」領域のみ全国平均正答率を下回っている。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	5の問題の正答率が最も高い。多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の意味を理解している問題である。	
	努力が必要な問題	「関数」分野において、福岡県及び全国の平均点を下回る。特に「一次関数の変化の割合の意味を理解している」、「与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる」に関する問題での正答率が低く、今後の授業等での改善、復習が必要である。	
理科	全体的な傾向や特徴など	全体的に全国平均を上回っているが、「地球」を柱とする領域のみ全国平均正答率を下回っている。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	3(1)の問題の正答率が最も高い。化学変化に関する知識及び技能を活用して、水素の燃焼を分子のモデルで表した図を基に化学反応式で表すことができるかどうかをみる問題である。	
	努力が必要な問題	「地球」を柱とする領域において、福岡県及び全国の平均点を下回る。特に「天候、気温・気圧」に関わる問題での正答率が悪い結果であった。また、「地層・大地の変動」等の問題では、全国の平均点と同等であり、より深い知識理解が必要であると考えられる。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
「1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか」の質問に対する肯定的な回答が全国平均を大きく下回った。それに対し、「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」の質問に対しては92%が肯定的な回答をしている。生徒自身はICT機器を利用した授業や補充学習に期待しているのに対し、教師側がその要求にこたえられていない現状があるといえる。今後のICT機器を利用した授業改善や補充学習の充実が必要であると考えられる。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

ICT機器を有効的に活用した授業の計画実行が必要である。また、尾倉中学校「思考ツール」を活用した、「考えをまとめ発信する力」の育成にも取り組んでいきたい。

② 家庭生活習慣等に関する取組

「普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか」の質問に対し、1時間未満と答えた生徒が15%にとどまり、全国平均を大きく下回った。学校でもスマホ等の使用に関し注意啓発を行っているが、各ご家庭でもスマホ等の適切な使用方法を家族で話してほしいと考える。